

## 身近なところでいいことたくさん 校区社会福祉協議会の福祉活動

—ふれあい・いきいきサロン—

ふれあい・いきいきサロン活動とは、身近な小地域（自治会等）を単位として、高齢者や障害者、児童など地域住民とボランティアが一緒に企画し、運営する「仲間づくり」「健康の維持・増進」「生きがいづくり」を進めるための活動です。市内には、こうしたサロンと呼ばれる「集いの場」が260か所以上あります。

### 鳥飼校区

#### 「いきいきサロンふれんど」

「いきいきサロンふれんど」（堀田元子代表）は、高齢者が地域の人と交流する機会を作り、みんなが笑顔で喜び合えるサロンを開きたいとの思いから、堀田代表や民生委員が中心となり、津福東自治会にも協力いただき、平成28年7月にスタートしました。

毎月第3土曜日、津福東公民館で開催されるサロンは、75歳から94歳までの42人が参加されています。単に楽しむというだけでなく、参加者とボランティア全員が顔見知りになることを大切にされており、参加者の座席は毎回くじ引きで決めていきます。

また、地域の保育園児との交流会やボランティア16人で手作りされるお菓子や食事なども楽しみのひとつです。

発足してから1年3か月、地域全体の協力で歩み始めた「いきいきサロンふれんど」は、今では地域になくはならない居場所となっています。



今回のサロンでは軽食を用意



ストレッチを行っている様子

## シリーズ 地域包括ケアシステムの構築にむけて⑤

### 住み慣れた地域でいつまでも ～まちづくりは福祉から～

西国分校区では、昨年度より自治会長や各種団体の代表が一体となって地域の支え合い体制を作る「支え合い推進会議※」に取り組まれています。

今回は西国分校区まちづくり委員会の荒木征洋会長に「福祉のまちづくり」や「支え合い推進会議」について思いを伺いました。



西国分校区まちづくり委員会 会長 荒木 征洋さん

#### 支え合い推進会議について

西国分校区では、平成28年8月、支え合い推進会議を設置し協議を続けています。その中で、この会議の具体的な設置目的が見えづらいという意見がありました。そこで、私たちは、地域における生活弱者を早期に発見し、それぞれが困っているニーズに対して、地域住民で何が出来るかを協議する組織であるという位置づけをしました。すなわち、ゴミ出しや買い物の手助け、高齢者や障害のある人々の見守り、あるいは支援を必要とする子どもたちへの援助などを、地域の協力や関係行政・団体と連携して事業を展開しようと、校区のさまざまな団体に参加して頂いています。

当初は、この会議の主体は校区社会福祉協議会が担うこととしていましたが、会議を進める中で、これらの事業展開はその中心となるのが地域のコミュニティ活動そのものであると思えました。そのため、地域における一番基盤的な組織である自治会の全面的参画が重要であるとの認識を持ちました。そこで、この組織の主体を校区まちづくり委員会に変更いたしました。今後は、校区全体の推進運動として、校区の全員で取り組んでいきたいと考えております。

※支え合い推進会議…地域で福祉やまちづくりに取組む様々な人々が参加し、地域で困っている人に気づき、支え合う仕組みづくりについて協議する場のこと。久留米市では平成32年度までに全46校区に設置することを目指しています。



西国分校区四世代交流